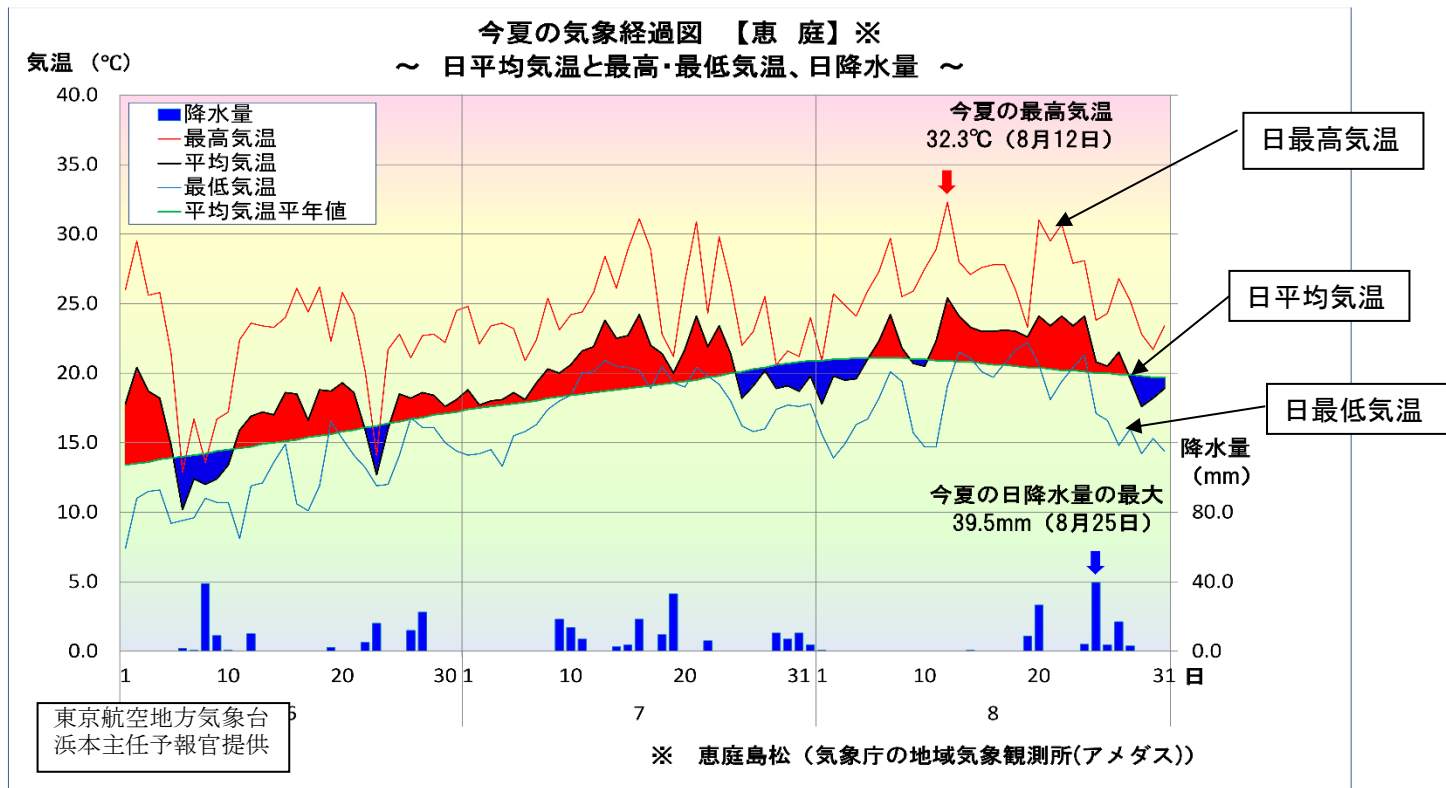


季節のまとめ

【今年の夏を振り返って】（令和8年6月～令和8年8月）

防災士 清水 為一



【概況】

今年の夏は、グラフで見られるように、北海道は平年並みの夏らしく、恵庭の真夏日は5日と昨年に比べ少なく経過しました。

月別経過」

6月」

上旬から中旬は高気圧に覆われ晴れた日もあったが8日から9日にかけて発達した低気圧の影響でまとまった雨となった。また、低気圧に向かう南からの暖かい空気が流れ込みやすくなったため、気温は高かった。下旬は北海道付近を低気圧が通過することが多かったため、曇りや雨の降る日が多かった。

* 月平均気温 16.7度 6月として高い方の第8位

* 10日間降水量 7.0mm (12日) 〃 多い方の第4位

7月」

偏西風が北へ蛇行し平年より北を流れたため、暖かい空気に覆われる日が多く気温はかなり高かった。上旬は、高気圧に覆われて晴れた日が多かったが、中旬から下旬は北海道付近を低気圧が通過することが多く、曇りや雨の日が多かった。また、低気圧に吹き込む南からの暖かい空気により気温は高かった。

8月」

7月に続き偏西風が北へ蛇行し平年より北を流れたため、暖かい空気に覆われる日が多く気温は高かった。上旬から中旬は、高気圧に覆われやすく晴れた日が多かったが、下旬は低気圧や前線の影響を受けやすかったため、曇りや雨の日が多かった。

＊日最大10分間降水量 14、5ミリ（20日） 8月として多い方の4位

＊月降水量の少ない方 103、0ミリ 〃 少ない方の第8位

まとめ

今年の夏は、真夏日（日最高気温が30度以上）が5日と昨年夏の22日に比べると少なくなりました。昨年は、7月21日から25日は連続5日間、30度以上の日が続き猛暑の夏となりましたが今年は、比較的凌ぎやすい夏となりました。本州では、大雨による災害が多発し、尊い人命が失われましたが北海道では大雨による災害はほとんどなく経過しました。

この要因として、次のようなことが考えられます。

- 1，日本付近で亜熱帯ジェット気流が持続的に北に蛇行し、また、エルニーニョによる対流が強まった西側で対流圏上層までのびる背の高い高気圧が形成され覆われ続けた。
- 2，一方、北海道は、オホーツク海気団の支配下にあり、猛暑にはならなかったが日本付近の海水温は非常に高くなっている影響で気温は高かった。
- 3，この両高気圧の間に形成された前線により本州は記録的な豪雨に見舞われた。

恵庭では今年の夏、猛暑とはなりませんでしたが、地球温暖化の影響が激しくなっていること、日本付近の海水温が非常に高くなっていることを考慮すると今後も猛暑になる要素はあると考えた方がよさそうです。